

新たな「北陸圏広域地方計画(案)」のポイント

背景

<生活環境・自然環境>

- 働きやすく、子育てしやすい環境
 - ・三世同居、快適な居住環境、地域コミュニティ、職住近接、充実した子育てサービス・教育環境等により、女性就業率、出生率ともに高い
 - ・一方で、高学歴者の希望する企業が少なく、正社員としての採用が少ない。若い女性が戻ってこない
- 高い世帯収入
 - ・高い有効求人倍率・共働き率等により、世帯収入が高い
- 人口減少・空き家の増加・高齢化の進行(特に半島や中山間地で深刻)
 - ・出生率は高いものの、若年女性の減少のため人口減少・高齢化の進行が早い
- 厳しい自然環境の反面、豊かな自然資産

<産業環境・観光誘客>

- 特徴ある世界レベルの産業の集積や人材によって時代の変化に対応(研究開発体制、担い手育成の強化、中高年のスキル人材としての活用)
- 災害リスク等を契機として高まる産業立地の優位性
- ポテンシャルの高まる国際物流環境
- 環日本海沿岸諸国と対面し、さらに三大都市圏と近接するという地理的優位性があるが、十分に活かされていない
- 圏域の食料供給力とブランド力の更なる強化
- 多様な観光資源、食文化、農業資源を活かした、多数の観光誘客
- 交通ネットワーク充実で、更なる拡充が見込まれる国内外観光客

課題

- 子育てしながら共働きできるライフスタイルの維持・向上
- 少子化の進展及び若い世代の人口流出に歯止めをかける、雇用環境の充実
- 厳しい自然環境の中でも安全・安心で快適な生活レベルの維持・向上
- 接続する都市圏と半島や中山間地の共生
- 地理的優位性と北陸ブランド力を生かした産業・農業の強化
- 太平洋側の災害リスクの高まりに伴う本社機能移転などへの積極的な対応
- 優れた観光資源を活かした、国内外誘致のための取組

目指すべき方向

- 北陸の優れた子育てに有利な地域コミュニティや環境を活かした少子化への歯止め
- 人口流出を接続する都市圏で留めるとともに環境と共生した魅力ある居住機会や教育環境提供で人口誘致
- 国内外の本社機能、製造拠点、食料供給機能等の集積により、太平洋ベルトを代替する日本海側ベルトを形成するとともに、太平洋側との連携を強化
- 三大都市圏等との観光交流や、新たなゴールデンルートとなる海外観光客の観光ルート形成

<社会環境の変化>

・2015.3 北陸新幹線(長野～富山・金沢)の開業

- 東日本大震災における日本海国土軸の活躍
 - ・サプライチェーンの代替機能として北陸の工業生産が増加。
- 外国人旅行者の誘客
 - ・2014年に訪日外客数が1000万人を突破。東アジアからの訪日外客が増加。
- 太平洋側の大規模災害リスク
 - ・首都直下地震、南海トラフ地震の発生確率が両方とも30年以内に70%程度。
- 国土強靱化基本計画
 - ・多重性・代替性を高めるための日本海側と太平洋側の連携。
- 国土のグランドデザイン2050
 - ・多重性と代替性を高める日本海側と太平洋側の連携を図る国土づくり。航路としての日本海側の重要性。
- インフラ長寿命化計画
 - ・ライフライン等のインフラが老朽化。将来にわたる必要なインフラ機能の発揮に向けた取組が必要。
- 東京一極集中からの脱却
 - ・人口減少からの早期脱却に向けて、若年層を中心とした東京への一極集中を是正。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催
 - ・訪日外国人旅行者数拡大の強力な追い風であり、この千載一遇の開催効果を北陸圏にも波及。

将来の姿(将来像)

(1) どこよりも輝き、
幸せな暮らしが
実現できる
新・北陸

(2) 日本海・太平洋
2面活用型国土
形成を牽引する
新・北陸

将来像実現の戦略目標

- 個性ある北陸圏の創生
 - ⇒ 更なる安全安心、環境豊かな暮らしの充実
 - ⇒ コンパクト+ネットワーク
- 競争力のある産業の育成
 - ⇒ 北陸のものづくり産業や農林水産業の一層の活性化
- 日本海国土軸の強化と太平洋側との連携強化
 - ⇒ 日本海沿岸地域との連携強化と太平洋側との連携強化
- 対流・交流人口の創出
 - ⇒ 北陸の魅力を活かした国内外との対流・交流の創出

- ・2023 北陸新幹線(金沢～敦賀)の開業
- ・2027 リニア中央新幹線(東京～名古屋)の開業
- ・北陸新幹線 大阪への早期延伸要望の高まり